

孟 泽琚
MENG Zejun



地域アイデンティティと芸術活動に関する考察 —東京東西の芸術活動の比較研究

発泡スチロール素材、紙

地域アイデンティティと芸術活動に関する考察

一 東京東西の芸術活動の比較研究

はじめに

私が芸術活動に深い関心を持つようになった理由は、学部での環境デザインの学習を通じて、都市空間の再活性化の可能性を探求することに魅力を感じたからである。今日的なデザインの役割は、物理的な空間の構造を超え、その空間が人々にどのように利用され、価値を見出されるかにまで及んでいる。そこで、都市開発における芸術活動の重要性に目を向け、特に、活用されていない都市空間、空き家、そして人々に忘れ去られたような場所の再活性化に焦点を当て、芸術が空間をどのように変容させ、地域コミュニティにどのように貢献できるかを探求することとした。

この研究では、日本の首都圏である東京の東・西部地区における都市開発の歴史的経緯に目を向け、そこで行われてきた芸術活動を通じ、都市空間の再活性化がどのように進行し、それが地域の特性をどのように反映し、都市の活力を促進しているかを考察する。これは、単に美的な側面に留まらず、都市空間の質的变化と地域社会の生活向上に寄与するものとしての芸術活動が、都市計画、地域社会の再構築、文化的再生にどのように貢献し、都市空間と住民の関係性にどのような影響を与えるかを探るものであり、芸術を通じて人々が自分たちの住む地域に新たな価値を見出し、地域アイデンティティを再発見し、形成する過程を明示するものである。

都市開発と芸術活動

東京の東西部とは、隅田川を中心とした東部と、JR 中央線に囲まれた西部の地域を指し、地理的には、東京都内と多摩地域とも呼ばれ、江戸時代には多摩川を通じて江戸に食料と水源を提供してきた。また、東部は隅田川を中心に都市計画が行われるとともに、花火大会など多くの芸術文化活動が生まれた。時代の変遷とともに、明治 22 年、東京都と多摩地域を結ぶ最初の鉄道、現在の JR 中央線の前身である甲午鉄道が開通し、両地域の経済文化交流を促進した。鉄道開通後の都市計画により、沿線に住む人口が増加。人々の居住パターンは、以前の河川依存から鉄道依存へと徐々に変化していった。異なる地域環境と歴史的発展を経た地域において、河川文化と現代の交通の発展に伴い育まれた芸術文化の状況の関係性に着目をした。

これらの文脈からの比較として、その事例として東京東部の向島地域と西部の中央線沿い地域は、それぞれ独自の歴史と文化を背景に、現代のまちづくりと芸術活動を展開しているところが伺える。隅田川周辺の東東京は、江戸時代からの文化が残る地域であり、多くの文化人が集まる場所として知られている。ここでは、歴史的な資源を活用し、新しい文化と芸術を創出する動きが見られる。中でも「すみだ向島 EXPO」は、歴史と文化の再解釈を通じて、地域社会に新たな価値を提供している。

一方、西東京の中央線沿い地域では、鉄道の発展が新しい都市構造を生み出し、中央線芸術祭などのイベントが開催されてきた。ここでは、新しいアート作品の創造や芸術活動が、多様な価値観を統合する新しいまちづくりを標榜している。

本研究では、これらの地域で培われた芸術活動の違いを探求するため、各地域で実施されている芸術祭のディレクターやアーティスト、アートセンターの運営者、芸術活動を支援する財団関係者からのインタビューやケース・スタディを通じて、都市開発と芸術活動の相互関係を深く掘り下げた。これらの地域における芸術活動は、都市インフラの整備と相まって発展しており、それぞれの地域の特性に基づいたアプローチにより独特な文化的アイデンティティを反映し、多様性を促進し、地域コミュニティの自己実現と地域アイデンティティの形成に貢献しており、都市空間の再活性化に不可欠な要素となっていると考えられる。

結論

東京の東西部における芸術活動の多様性は、それぞれの地域が経験してきた都市開発の過程と深く関連している。東部地域は、江戸時代から続く豊かな文化遺産を基盤として、多様なリソースを活用し、地域の文化とアイデンティティの再創造に努めている。ここでは、歴史的背景と地域資源を基にした芸術表現が、地域コミュニティのつながりや文化の継続性を強化している。

一方で、西部地域は、東部とは異なる歴史的背景のもとで発展してきており、特に鉄道の発展によって形成された新しい都市構造は、この地域の芸術活動に大きな影響を与えている。西部地域のアーティストたちは、鉄道やその周辺の新しい空間をリソースとして活用し、時代の変遷を捉えた独自の芸術表現を展開している。

東西両地域の芸術活動は、それぞれの都市開発の進展と歴史的背景に根差し、アーティストや地域コミュニティの参加を通じて、多様な表現やアイデンティティの確立、そして価値の再発見を促進している。これらの地域では、都市開発の流れに沿って、それぞれ独自のアイデンティティが形成されており、これが豊かな芸術表現と活動の発展に寄与している。

東京は、多様な地域特性を持ちながら発展してきた都市であり、この多様性が様々なアート活動の基盤となっている。都市開発は、物理的な空間の構築に留まらず、そこで暮らす人々の文化や生活の質をどのように向上させるかという観点も重要であり、アートはこの点で重要な役割を果たしている。

今日では東京の隅田川エリアや中央線エリアのみならず、千代田区・有楽町のビジネス街などの東京の中心部でも発展し、都市全体でアートを通じた新しい表現が生まれている。これらは、都市開発と芸術活動の密接な連携を示すものであり、アーティストたちにとっても、自身の活動が都市の発展とともに進化していることも物語っている。

展望

将来、私は、中国において、都市の孤独感を軽減し、人々の心のつながりを強化し、都市と郊外、または山間部の村落間の人口移動を促進するための芸術活動の展開を目指している。これらの芸術活動が都市計画、地域社会の再構築、そして文化的再生の重要な要素として認識されることが重要であり、芸術を通じて、人々が自分たちの住む地域に新たな価値を見出し、地域コミュニティに積極的に参加し、その地域固有のアイデンティティを再発見し、形成することができると考えている。

さらに、芸術を公共空間に展開することで、その地域の文化を形成し、芸術自体が地域コミュニティとの相互作用の中で進化し、常に新しい形を生み出すだろう。これにより、コミュニティは豊かで活力あるものになり、住民は新しい視点と体験を得ることが出来る。これは、地域コミュニティへの帰属感と認同感を強化し、都市空間の質的变化を促進するための芸術活動の真の役割と言えるのではないだろうか。

このような取り組みを通じて、私は芸術が都市空間とどのように結びつき、地域社会にどのような影響を与えるかをさらに深く理解し、実践していった。これは単なる芸術活動ではなく、都市と人々の関係性を変革する一環となるだろう。